

一般社団法人コミュニティシネマセンター

2018年度(平成30年度)事業報告

1. 受託事業

[1] 「映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2018」

(文化庁 平成30年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

継続的に実施している人材育成事業。2018年度は下記の事業を実施した。

(1) 全国コミュニティシネマ会議2018イン山形の開催

2018年9月28日(金)、29日(土) 会場:山形グランドホテル(山形市)他

共催:全国コミュニティシネマ会議2018山形実行委員会(山形国際ドキュメンタリー映画祭ほか)

参加者:279名

2018年の全国コミュニティシネマ会議は、2017年10月にユネスコ創造都市・映画分野に加盟した山形市において、ブラッドフォード市、プサン市といった加盟都市からゲストを招き、“映像文化創造都市”の可能性を探るとともに、映画上映の現在を知り、これからの映画上映を豊かにするための、多彩なプログラムを実施した。

■プレゼンテーションとディスカッション:やまがた創造都市国際会議2018

映像文化創造都市の可能性—“映画”が都市を魅力的にする

佐藤孝弘(山形市長)、デヴィッド・ウィルソン(ブラッドフォード創造都市ディレクター)、キム・ヒョンス(プサン・コーナシアター代表)、司会:阿部宏慈(東北芸術工科大学)

■プレゼンテーションとディスカッション:映画上映の現在と未来—映画配信時代の上映

プレゼンテーション:岩崎ゆう子、小川茉侑(コミュニティシネマセンター)

ディスカッション:梶原俊幸(シネマ・ジャック&ベティ)、三宅洋一郎(野村総合研究所)、矢田部吉彦(東京国際映画祭)、司会:堀越謙三(ユーロスペース)

■プレゼンテーションマラソン イン 山形

ドキュ山ユース、山形国際ムービーフェスティバル/MOVIE ONやまがた、フォーラム山形/山形県映画センター、鶴岡まちなかキネマ、山形大学映像文化研究所、米沢伴淳映画祭、山形市創造都市推進協議会、朝日座、山の恵みの映画たち、シネマエール東北

■分科会:地域の映像アーカイブとその活用について

石原香絵(映画保存協会)、坂本英紀(20世紀アーカイブ仙台)、田中千秋(せんだいメディアテーク)、畑あゆみ(山形国際ドキュメンタリー映画祭)、司会:小川直人(せんだいメディアテーク)

■分科会:若年層の観客を開拓する—大学生・高校生と映画館

古賀太(日本大学芸術学部)、遠藤徹(山形国際ドキュメンタリー映画祭)、上田真之(早稲田松竹)、司会:土田環(早稲田大学基幹理工学部)

■分科会:上映初心者のための分科会～上映企画ワークショップ

志尾睦子(たかさきコミュニティシネマ)、小川茉侑(コミュニティシネマセンター)

(2) ディスカッション&ワークショップ

① ワークショップ:専門家に聞くデジタルシネマ機の動向と音楽著作権問題の現状

2018年9月27日(木) 会場:KUGURU(山形市) 参加者:48名

「全国コミュニティシネマ会議2018イン山形」の開催にあわせて、上映者にとって関心が高まっている音楽著作権(JASRAC)の問題と、設置から10年近くが経過しつつあるデジタル上映機材の更新について、専門家によるレクチャーを聞くワークショップ(勉強会)を開催した。

■音楽著作権問題はどうか

田井肇(大分シネマ5代表/コミュニティシネマセンター代表理事)

■今後、デジタルシネマ機はどうか

金子晋丈(慶應義塾大学理工学部情報工学科兼デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター専任講師)

② ディスカッション:劇場の運営効率化を現場レベルで考えよう!(全国コミュニティシネマ会議分科会)

2018年9月29日(土) 会場:山形市総合福祉センター 参加者:45名

「映画」を取り巻く大きな渦の中で、映画館の現場ではどんなことが起きているのか。どうすれば、上映作品の広報宣伝を丁寧に行う時間を生み出せるのか。チケットの発券システムや売上・勤怠管理等、各映画館が実践している運営方法を共有し、よりよい運営のあり方を考えた。

出演者:吉田由利香(京都みなみ会館)、林未来(元町映画館)

(3) Fシネマ・プロジェクトの推進

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持し続けるための「Fシネマ・プロジェクト」。ウェブサイト「Fシネママップ」を活用した情報提供・ネットワークづくりと上映者・映写技師育成のためのワークショップ、フィルム上映会(こども映画館)を実施した。

① ディスカッション:Fシネマで行こう!—フィルムの上映を企画しよう!(全国コミュニティシネマ会議分科会)

2018年9月29日(土) 会場:山形市総合福祉センター 参加者:31名

映画のデジタル化が進む中、今後もフィルムでの上映環境を確保するための「Fシネマ・プロジェクト」。フィルム上映の魅力を観客に伝えるための各地の上映者の取り組みを紹介し、フィルムでの上映の可能性を考える。

出演者:田井肇(大分シネマ5)、杉原永純(山口情報芸術センター)、柳下美恵(サイレント映画ピアニスト)、鈴木直巳(鈴木映画)、神田麻美、岩崎ゆう子(コミュニティシネマセンター)

② フィルム映写ワークショップ イン 京都

2018年12月1日(土) 会場:松竹立命館スタジオ 参加者:初級…12名 中級…8名

講師:石井義人(シネマトグラファー京都)、神田麻美(Fシネマ・プロジェクト/国立映画アーカイブ)、川村健一郎(立命館大学映像学部教授)

③ フィルム上映会

■全国コミュニティシネマ会議2018イン山形開催記念特別上映

2018年9月28日(金) 会場:山形グランドホテル

上映作品:『國士無双』(1932年/伊丹万作監督)

2018年9月29日(土) 会場:フォーラム山形

『ゼロ弾きのゴーシュ』(1982年/高畑勲監督)、

『YUKIGUNI』(2018年/渡辺智史監督)

出演者:柳下美恵(『國士無双』ピアノ伴奏)、久良木夏海(『ゼロ弾きのゴーシュ』上映後チェロ演奏)

■こども映画館「スクリーンで見る日本アニメーション!」の実施

詳細は、後述のこども映画館を参照。

(4)アートマネジメントワークショップ イン 東北

東日本大震災の被災地、映画館がなくなってしまった東北の太平洋沿岸地域で、映画上映の場をつくり、映画文化の拠点づくりを支援するための事業。2018年度は、陸前高田と釜石で実施した。

■陸前高田 受講者13人

2月22日(金)「知る① 映画のしごとと新しい映画体験の場」

2月23日(土)「知る② 映画のしごと+実践①上映会企画」

3月31日(日)「実践 みんなで上映会を運営してみよう!」

上映作品:ドキュメンタリー映画『廻り神楽』(2018年/大澤未来・遠藤協 共同監督)

■釜石 受講者11人

「みんなで映画祭をつくろう。実践型WS」:12月19日、27日、1月16日、2月14日、2月25日

「第3回釜石てっぱん映画祭」:2019年3月2日(土)、3日(日)

上映作品:『息の跡』(2016年/小森はるか)、『一陽来復 Life Goes On』(2017年/ユンミア)、『フクシマ・モナムール』(2016年/ドリス・デリエ)『四十九日のレシピ』(2013年/タナダユキ)、『カラニコエの花』(2016年/中川駿)ほか

[2] 「映画上映活動年鑑2018」の作成

(文化庁 平成30年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

「興行」(及び配給)の動向に関する既存のデータや情報を活用しながら、これに、映画祭や公共上映等の新しいデータを加えて、より幅広い視点から映画の[上映]をとらえ、データを収集し、2018年の映画上映の状況を分析した。

主な内容

I 映画館での上映

[1]概況[2]都道府県別概況[3]公開本数など[4]諸外国との比較

資料:全国コミュニティシネマ会議2018採録 「映画上映の現在と未来—映画配信時代の上映」

II 公共上映

[1]全国映画祭リスト [2]公共の映画専門施設(シネマテーク)及び上映事業を行う美術館など

[3]上映事業を行っている公共ホールなど

資料:全国コミュニティシネマ会議2018採録 「地域の映像アーカイブとその活用について—3.11が遺したもの」

「Fシネマで行こう!—フィルム上映を企画しよう!」

III 特別調査

[1]上映に関わる用語[2018]

[2]公開作品の増加と地域における上映作品・上映活動の多様性を考える

IV 資料

[1]全国コミュニティシネマ会議2018採録

「やまがた創造都市国際会議2018 映像文化創造都市の可能性—“映画”が都市を魅力的にする」

「若年層の観客を開拓する—大学生・高校生と映画館」

[2]都道府県別上映施設一覧

地方別上映施設地図

都道府県別上映施設一覧

2. 自主事業

[1] シネマテーク・プロジェクト / Fシネマ・プロジェクト関連企画

(1) こども映画館「スクリーンでみる日本アニメーション！」(国立映画アーカイブ共同事業)

映画をみて、日本のアニメーション映画の歴史や、様々なアニメーションの技法に触れ、アニメーション史を彩るつくり手たちを知り、アニメーションを体験することができる、子どもたちにも、大人にも楽しんでもらえるプログラム「こども映画館 スクリーンでみる日本アニメーション！」を、国立映画アーカイブの協力を得て、全国に巡回した。また、「こども映画館」のウェブサイト (<http://kodomoiegakan.jp/>) を2018年9月に公開し、作品情報や、上映スケジュール、上映者のためのテキストなどを掲載している。

実施会場:

合計10会場 観客数合計 1538人

鎌倉市川喜多映画記念館 実施日:2018年7月25日～8月3日 参加者136人

上映作品:『パンダコパンダ』『パンダコパンダ雨降りサーカス』、「NFAJ」短篇集3:さまざまな手法」

※「昔のアニメに音や言葉をつけてみよう」ワークショップ有

仙台短篇映画祭 実施日:2018年9月16日 参加者56人

上映作品:『パンダコパンダ』、「NFAJ」短篇集1:いろいろな動物の映画」

邑の映画会 実施日:2018年11月3日参加者200人

上映作品:「NFAJ」短篇集1:いろいろな動物の映画」 ※ワークショップ有

松本市美術館(松本CINEMAセレクト) 実施日:2018年11月10日 参加者56人

上映作品:『パンダコパンダ』

※同時開催「こども映画教室/みんなのムービー アニメーションのしくみワークショップ」

札幌映画サークル 実施日:2018年11月25日 参加者139人

上映作品:『太陽の王子 ホルスの大冒険』『長靴をはいた猫』『パンダコパンダ』『パンダコパンダ雨降りサーカス』

シネマ尾道 実施日:2018年12月29日～2019年1月4日 参加者数132人

上映作品:『パンダコパンダ』

高知県立美術館 実施日:2019年1月26、27日 参加者数(延べ)227人

上映作品:「NFAJ」短篇集1 いろいろな動物の映画」、「NFAJ」短篇集2 歌とリズム」、「NFAJ」短篇集3 さまざまな手法」、「おこんじょうり』『パンダコパンダ』『パンダコパンダ雨降りサーカス』『太陽の王子 ホルスの大冒険』『長靴をはいた猫』

ゆふいんこども映画祭 実施日:2019年3月2日 参加者数 427人

上映作品:「NFAJ」短篇集1 いろいろな動物の映画」、「NFAJ」短篇集2 歌とリズム」、「NFAJ」短篇集3 さまざまな手法」、「パンダコパンダ』『ゼロ弾きのゴーシュ』『太陽の王子 ホルスの大冒険』

高崎映画祭 実施日:2019年3月30日 参加者数 45人

上映作品:『長靴をはいた猫』 ※ワークショップ有

川崎市市民ミュージアム 実施日:2019年3月29～31日 参加者数120人

上映作品:「NFAJ」短篇集2 歌とリズム」、「ゼロ弾きのゴーシュ」 ※ワークショップ有

(2) フレデリック・ワイズマン・レトロスペクティブ

『ニューヨーク、ジャクソンハイツへようこそ』、『ニューヨーク公共図書館エクス・リブリス』が相次いで劇場公開されたドキュメンタリー作家フレデリック・ワイズマン。コミュニティシネマセンターでは、1998年に「フレデリック・ワイズマン映画祭」を開催して以来、少しずつ上映できる作品を追加し、ワイズマン作品を紹介しつづけた。2018年には、『ジャクソンハイツへようこそ』の劇場公開に合わせ、アテネ・フランセ文化センターと共催で、現在上映可能な40作品をすべて上映する「フレデリック・ワイズマンのすべて」を開催した。これに合わせて、日本未公開であった近作『大学—At Berkeley』を購入し、日本語字幕を付けて初上映を行った。また、全国各地への巡回も開始した。

上映作品(全40作品):

チチカット・フォーリーズ 1967年/84分/白黒/BD
 高校 1968年/75分/白黒/16ミリ
 法と秩序 1969年/81分/白黒/16ミリ
 病院 1970年/84分/白黒/16ミリ
 基礎訓練 1971年/89分/白黒/BD
 エッセネ派 1972年/89分/白黒/16ミリ
 少年裁判所 1973年/144分/白黒/16ミリ
 霊長類 1974年/105分/白黒/16ミリ
 福祉 1975年/167分/白黒/16ミリ
 肉 1976年/113分/白黒/16ミリ
 パナマ運河地帯 1977年/174分/白黒/BD
 シナイ半島監視団 1978年/127分/白黒/16ミリ
 軍事演習 1979年/115分/白黒/16ミリ
 モデル 1980年/129分/白黒/16ミリ
 ストア 1983年/118分/カラー/16ミリ
 競馬場 1985年/114分/白黒/16ミリ
 視覚障害 1986年/132分/カラー/16ミリ
 聴覚障害 1986年/164分/カラー/16ミリ
 適応と仕事 1986年/120分/カラー/16ミリ
 多重障害 1986年/126分/カラー/16ミリ
 ミサイル 1987年/115分/カラー/16ミリ
 臨死 1989年/358分/白黒/16ミリ
 セントラル・パーク 1989年/176分/カラー/16ミリ
 アスペン 1991年/146分/カラー/16ミリ
 動物園 1993年/130分/カラー/16ミリ
 高校2 1994年/220分/カラー/ブルーレイ
 BALLET アメリカン・バレエ・シアターの世界 1995年/170分/カラー/16ミリ
 コメディ・フランセーズ 演じられた愛 1996年/223分/16mm/カラー/16ミリ
 パブリック・ハウジング 1997年/195分/カラー/16ミリ
 メイン州ベルファスト 1999年/248分/カラー/16ミリ
 DVドメスティック・バイオレンス 2001年/196分/カラー/16ミリ
 DV2 2002年/160分/カラー/16ミリ
 最後の手紙 2002年/62分/白黒/35ミリ
 州議会 2006年/217分/カラー/16ミリ
 ボクシング・ジム 2010年/91分/カラー/ブルーレイ
 クレージーホース・パリ 夜の宝石たち 2011年/134分/カラー/DCP
 大学—At Berkley 2013年/244分/カラー/DCP
 ナショナル・ギャラリー 英国の至宝 2014年/181分/カラー/DCP
 ニューヨーク、ジャクソンハイツへようこそ 2015年/189分/カラー/DCP

■アテネ・フランセ文化センターでの上映

「フレデリック・ワイズマンの足跡 Part.1 1967年—1985年」 2018年10月8日～11月10日

「フレデリック・ワイズマンの足跡 Part.2 1986年—2014年」12月4日～15日、2019年1月22～26日、2月5～9日

「フレデリック・ワイズマンの足跡 Part.3:フレデリック・ワイズマンのすべて」2月18日～3月2日、18日～30日

トーク:

1月26日[土] 齊藤綾子(明治学院大学文学部)、藤井仁子(早稲田大学文学部)、土田環(早稲田大学基幹理工学部)

2月18日[月] 三宅唱(映画監督)、高橋洋(脚本家・映画監督)、石坂健治(東京国際映画祭プログラミングディレクター)
3月2日[土] 樋口泰人(boid主宰)、相澤虎之助(映画監督・脚本家)、土田環
3月23日[土] 濱口竜介(映画監督)、細馬宏通(滋賀県立大学人間文化学部教授)
3月27日[水] ジュリアン・ジュステール(リベラシオン紙文化欄チーフ) 聞き手:坂本安美(アンスティチュ・フランセ日本)
観客数:4319人

■ 巡回

シアター・イメージフォーラム(2018年9月)、山口情報芸術センター(2019年1月)

[2] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 「カイエ・デュ・シネマが選ぶフランス映画の現在」

フランスの伝説的映画雑誌「カイエ・デュ・シネマ」誌とアンスティチュ・フランセ日本が提携し、現在の映画を語るべく、選りすぐった作品を紹介する「カイエ・デュ・シネマ週間」。コミュニティシネマセンターでは、「カイエ・デュ・シネマが選ぶフランス映画の現在」として劇場未公開10作品を巡回、12月にはユーロスペースで上映会を開催した。

巡回作品

- ・レット・ザ・サンシャイン・イン 2017/クレール・ドゥニ
- ・ジャネット、ジャンヌ・ダルクの幼年期 2017/ブリュノ・デュモン ※2018年オープニング作品
- ・プティット・カンカン 2014/ブリュノ・デュモン
- ・パーク 2016/ダミアン・マニヴェル ※ダミアン・マニヴェル セレクション
- ・ヴィクトリア 2016/ジュスティーン・トリエ
- ・ソルフェリーノの戦い 2013/ジュスティーン・トリエ
- ・ジャングルの掟 2016/アントナン・ペレジャトコ
- ・7月14日の娘 2013/アントナン・ペレジャトコ
- ・さよならは言わない 2017/クリストフ・アグ
- ・ジョセフの息子 2016/ウジェーヌ・グリーン

■ ユーロスペースでの上映

2018年12月15日(土)～12月27日(木) 観客数 1921人

上記の巡回作品に『パリ18区、夜。』(1994/クレール・ドゥニ)、『クリーン』(2004/オリヴィエ・アサイヤス)、『キングス&クイーン』(2004/アルノー・デプレシヤン)、『ホーリー・モーターズ』(2012/レオス・カラックス)を加えて上映。

トーク:

- 12月15日(土) 『レット・ザ・サンシャイン・イン』上映後 須藤健太郎(映画批評家)
- 12月18日(火) 『ヴィクトリア』上映後 五所純子(文筆家)
- 12月27日(木) 『クリーン』上映後 三宅唱(映画監督)

■ 巡回

広島市映像文化ライブラリー(2018年9月)、高知県立美術館(2018年10月)、山口情報芸術センター(2018年12月)、ユーロスペース(2018年12月)、名古屋シネマテーク(2019年2月)、シネマテーク高崎(2019年7月※2019年度)

(3) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など

フレデリック・ワイズマン監督作品、ヤスミン・アフマド監督作品、英国ドキュメンタリー、その他、当センターが保有する作品、配給委託作品の貸出を行った。

[3] ミニシアター・ネットワーク

(1) 会員館共通マナー広告『ばくーと映画館のお友だち』の制作・提供

アニメーション作家和田淳氏による上映前マナーCM『ばくーと映画館のお友だち』が完成し、コミュニティシネマセンター加盟の映画館、ホール、美術館、映画祭などに、素材を提供した。

『ばくーと映画館のお友だち』

上映時間:1分36秒/1分12秒 カラー ヴィスタ・サイズ(1:1.85) 5.1ch DCP 2018年

◎アニメーション監督:和田淳 ◎ばくー/Atsushi Wada

◎音楽:世武裕子 ◎音楽エンジニア:小森雅仁 ◎サウンド・デザイン:黄永昌

◎協力:アテネ・フランセ文化センター制作室 ◎提供:一般社団法人コミュニティシネマセンター

(2) 会員相互割引サービス/デジタルシネマの情報共有など

- ・ コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。
- ・ 間近に迫るデジタルシステムの更新についてワークショップを実施、情報提供を行った。

[4] 映画上映振興策 実施計画書の作成

2019年度の実現を目指して文化庁が検討していた「映画上映振興策」の立案に協力した。

[5] その他の事業

(1) ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実など

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行った。

(2) 地域のコミュニティシネマに対する支援・アドバイスなど